

分野3

サステナビリティ経営の推進

本分野では、客観性・透明性の高い経営管理態勢のもとで、事業活動を通じた環境・社会の持続可能性の確保に努めます。

また高度な情報開示の実施に加えて、ステークホルダーのみならず、有識者の方々と定期的に意見交換をすることにより、サステナブル経営の不断の検討・改善を重ねます。

課題		取組方向
課題 3-1	透明性のある組織統治体制の確保	客観性・透明性の高い経営管理体制の実現に向けて、不断に取り組む。
課題 3-2	環境や社会に関するリスク機会の管理強化	社会情勢やステークホルダーの声を踏まえたサステナブル重要課題の特定と、リスクや事業機会の検討を継続的に実施し、高度な情報開示を実現する。
課題 3-3	ステークホルダーエンゲージメントの強化	ステークホルダーとの対話を継続的に実施し、意見を反映させた当金庫らしい事業創出、社会貢献活動を展開する。

主な取組み

- サステナビリティ・アドバイザー・ボードの設置
- ステークホルダーとのサステナビリティに関する意見交換
- 系統全国連をはじめ協同組合組織との連携強化

関連するSDGs



透明性のある組織統治体制の確保

経営体制

当金庫の意思決定は、会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が分担・連携する体制としています。

経営管理委員会は、総代会への付議・報告事項のほか、協同組織にかかる重要事項の決定などを行うとともに、理事に説明を求めたり、総代会に理事解任を請求できるなど、理事の業務執行に対する監督権限を有しています。理事会は、経営管理委員会の決定事項を除く業務執行の決定や、理事の業務執行の相互監督を行っています。

内部統制強化

当金庫は、基本的使命と社会的責任を果たすため、経営管理態勢の構築を最重要課題と位置付け、企業倫理や法令の遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するため、内部統制に関する基本方針を制定しています。

リスク管理

当金庫は、リスクの種類や管理体制・手法を定めた「リスクマネジメント基本方針」のもと、業務運営において直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象リスクを特定のうえで、各リスクの特性を踏まえた管理を行うとともに、計量化手法によりこれらのリスクを総体的に把握し、経営体力と比較・管理する統合的リスク管理を行っています。

ステークホルダーエンゲージメントの強化

農林中央金庫のステークホルダー

- JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)などの会員
- 会員の組合員(農林水産業に従事するみなさま)、農林水産関連企業をはじめとする預貯金や貸出のお取引先
- 地域社会のみなさま
- 金融機関や市場参加者、業務委託先など業務全般にわたるビジネスパートナー
- 行政
- 職員

当金庫の経営や日常の業務活動と密接な関係にあるステークホルダー(利害関係者等)との信頼関係は、一朝一夕で築き上げられたものではなく、設立以来の歴史のなかで営々と築かれてきたものです。

この信頼関係は、当金庫にとって大切な財産であり、基本的使命や社会的責任を果たしていくためにも、将来に向けて若者世代も含めて一層強固な信頼関係を維持・構築していくことが大切です。

そのためにも、ステークホルダーに対して、ディスクロージャーやアカウンタビリティを重視し、透明性の高い組織風土を構築していく努力を続けていきます。

会員との意見交換

系統が一丸となったサステナブル経営の実践に向け、会員との意見交換を行っています。

JAグループにおいては、全国段階のJA全中・JA全農・JA共済連等とともに「SDGs連絡会」に参加し、サステナビリティにかかる世の中の情勢や、農林水産業・地域の持続可能性に向けた取組みについて意見交換を行っています。また、JAバンクとしての取組みについて、都道府県段階のJA信農連との意見交換会を行っています。2021年度は、JA信農連における気候変動対応および開示の在り方について意見交換を行いました。

さらに、森林・林業の取組みについては全国森林組合連合会と、水産業の取組みについては、全国漁業協同組合連合会と意見交換を行っています。

多様なステークホルダーとの対話

当金庫は、国内外でさまざまなステークホルダーと対話を積極的に行い、お客さまのサステナビリティにかかる取組みの支援やビジネスチャンスの創出につなげていきます。

トピック

次世代を担う若者との対話

イノベーションラボ「AgVenture Lab」（アグベンチャーラボ）（P49）では、社会課題の解決を目指す学生起業家を支援するため、学生を対象としたビジネスプランコンテストを開催しました。

全国の大学、大学院、高等専門学校、専門学校から応募のあった76件のアイデアから10件のファイナリストを選出。2022年2月に開催した表彰式では、ファイナリストそれぞれがビジネスプランを発表のうえ、参加者同士での連携を深めました。

JAグループは、こうした若者との協働・連携に向けての対話を積極的に行っています。



表彰式の様子

トピック

欧州現地法人におけるお客さまとの対話

農林中金ヨーロッパ(Norinchukin Bank Europe N.V.)では、サステナビリティ関連の市場リサーチのお客さまへの提供・対話を通じて、日系企業を中心としたお客さまのビジネス機会獲得をサポートしています。

担当者の声

農林中金ヨーロッパ
シニア・リサーチアナリスト

リック テルフォート



当金庫グループのお客さまの新たなビジネスチャンス獲得を支援するため、サステナビリティに関する対話を行っています。お客さまにとって付加価値のある市場リサーチ機能を提供するため、オランダのヴァーヘニンゲン大学(WUR)、農業分野の協同組織金融機関であるラボバンクやクレディアグリコルなどと密に連携しています。WURとはインターンシッププログラムを開始しており、WURの理学修士課程の学生が農林中金ヨーロッパで6か月間の研究インターンシップを行い、サステナビリティに関する重要なトピックについて共同で研究を行っています。また、植物性タンパク質などのサステナビリティにおける市場開拓は今後の事業展開にとって重要なテーマであり、2022年3月にオランダ経済・気候政策省企業誘致局(NFIA)東京事務所が主催した外部ウェビナー「ヨーロッパとオランダにおける代替タンパク質の機会」で研究の発表を行いました。

協同組合組織との連携

協同組合組織は、「一人は万人のために、万人は一人のために」を合言葉に設立された組織で、地域社会に根差し、人々による助け合いを促進することで生活を安定させ、地域社会を活性化させる役割を担っています。

世界の協同組合の連合組織である国際協同組合同盟(ICA:International Co-operative Alliance)は、世界112カ国から農協、漁協、森林組合、生協など、あらゆる分野の318協同組合組織が加盟しており、当金庫も加盟メンバーです。

また日本では、2013年に国際協同組合年記念協同組合全国協議会(IYC記念全国協議会)が発足し、2019年度より日本協同組合連携機構(JCA)に引き継がれています。JCAには、当金庫も参加し、他の協同組合組織との連携を進めています。

協同組合組織とSDGs

協同組合組織は、貧困や飢餓などの問題に取り組んでおり、国連によりSDGsを達成するための重要なステークホルダーの一つとして位置付けられています。ICAも全世界の協同組合組織が総力をあげてSDGsの達成に向けて取り組むことを奨励。日本でも、政府による「SDGs実施指針」に協同組合組織が明記されています。このように、SDGsの達成において協同組合組織が果たす役割に、国内外で大きな期待が寄せられています。